

近世・近代社会経済資料（古文書）デジタルアーカイブについて

- (1) このデジタルアーカイブは、東京大学経済学図書館が所蔵する近世・近代社会経済資料のうち、古文書類について順次デジタル化をすすめているものです。
- (2) このデジタルアーカイブの利用に際しては「[東京大学経済学図書館電子資料利用規則](#)」に同意したものとみなされます。
- (3) 印刷物など他媒体への使用については、東京大学経済学図書館までお問合せください。
- (4) 画像は白黒です。文書原本の朱書や裏書、端裏書、裏継目印、前欠・中欠・後欠の部分、丁間に挿入された文書や脱落した付箋については、画像内に「朱書」「裏書」「端裏書」「裏継目印」「前欠」「中欠」「後欠」「挿入文書」「脱落付箋」などの置き札を写し込んであります。また、原本が破損し撮影が不可能な場合や、白紙が何枚も続く場合には、「以下破損につき撮影不能」、「以下〇丁白紙につき撮影省略」などのターゲットで明示してあります。
- (5) 画像の撮影には文字が視認できるよう十分な注意を払っていますが、資料の欠損、変色、褪色等の劣化や、ノド部分の状態によっては、原本の文字が全て写っていないものがあります。これらについては資料の原形を保ちつつ、出来る限りの範囲で撮影したものとして了解下さい。写りの悪い文書については、東京大学経済学部資料室にて、所定の手続きにより原本の閲覧をお願いします。
- (6) 文字間のコントラストの差が大きなものについては、視認性を高めるために、照明を調整して複数回撮影しています。この場合は、同一の丁の画像が複数枚連続して表示されます。
- (7) 本アーカイブに関する質問等については、東京大学経済学部資料室までお問い合わせ下さい。
- (8) 本デジタルアーカイブの一部は、独立行政法人日本学術振興会平成 25 年度科学研究費補助金（研究成果公開促進費）課題番号 258061 の交付を受けて作成しています。

萬集錄

卷



經濟學部
研究室
52
1530

東
1

何

経済学部
研究
5
1530

清之洲 舟橋渡子 何書行

吾居甲斐守

法之並版上段 初空板 永正長渡 舟元十地
法空卷 兼外渡世々之の先 此心外
考出下々 渡打之々 舟元十地 舟元十地



経済

40044

法亦海之上方而中國為中國之海
地也亦有接也亦有未付其意也揚
名也其紀實也其文也其調也其以也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也

中之也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也
其也其也其也其也其也其也其也

了度法色潤方是之し初出厨内是遠
西上成以觸有之し付し初も右以觸
見右列紙之進正原也之し初作紙
列紙之觸索也原は原字句也

三月

名居早世也

中觸索

左身法之之進之し編初成事之右
左申年不化勿未續是原之進也
是毅之進也之し初も勿編也
以法名也之し初毅之元也
本陽也之し初事之右也法之右也
准一之し初有之し初也之し初也
之し初也方也之し初也之し初也

此法之重版也其法之在門下
商會之門下也其法之在門下
重版之門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下

其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下
其法之在門下也其法之在門下

之河内より弟信行下すは志多し入法
之を信行下すは信行入之河内より南
方より下すは志多し信行下すは
以上より信行下すは志多し信行
之河内より下すは志多し信行
之河内より下すは志多し信行
或は之河内より下すは志多し信行

事多し之河内より下すは志多し信行
之河内より下すは志多し信行
之河内より下すは志多し信行
之河内より下すは志多し信行

三月

右河内より下すは志多し信行
之河内より下すは志多し信行

万石以上は下少を是と書く

右報回く是違國法乎以不也

少者其は觸骨也料く之を私恩也

三原を公統教條とく國法未元書

訂下の方不注を量買不坊海

た先列く其の以中付取扱く世

下付く右付以元元是原未訂

報もあなを以て創度者

は法もあなを以て創度者

この中法もあなを以て創度者

原く下中法

疏書通方淺在綱書

中川公著
戶田方子
依此條通

中川公著不承疏書通方淺由私力取在是年
年九指九世同通其言今日多院文在
由家來市徑之送了在形判到合年切
古通之入其教多由庶民送中

由龍文之不通公使策之云云乃為脈案種取
其通之脈案之不通如左列之根之由脈疏
其川脈之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通

由龍文之不通公使策之云云乃為脈案種取
其通之脈案之不通如左列之根之由脈疏
其川脈之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通
其通之脈案之不通之脈案之不通之脈案之不通

湯水舟車字名及言不知在言後也其言
如月之殿上其月乃月不知何道之往國也
右之經程利於心也其言其言其言
及在言上其言是言其言其言其言其言
中流右徑又其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言其言
右經月海其言其言其言其言其言其言

世所不知其言其言其言其言其言其言

中川篇

世及友上
其言其言
其言其言

正月

中川篇不流其言其言其言其言其言其言

其言其言其言

中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守
法理経略通方中川公房本家藤原通方一氏并戸田大守

字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守
字首月之藤通船方藤原通方一氏并戸田大守

海ノ事ノ成ル所ニ返テ而後
中ノ事

三月

多田子安

今度者上ノ一系令非常ノ海ノ事
清量者ノ間達ニテ了ラセ海ノ事

達ニテ海ノ事ノ一系令非常ノ海ノ事
海ノ事ノ一系令非常ノ海ノ事

海ノ事ノ一系令非常ノ海ノ事
海ノ事ノ一系令非常ノ海ノ事

右道ノ事ノ一系令非常ノ海ノ事
海ノ事ノ一系令非常ノ海ノ事

昔も三丁の年本一年の旨に本
之不便然るに利年延び 江戸方
本為大の増上本に本も本も本
本に本に本に本に本に本に本

一 本
本に本に本に本に本に本に本
本に本に本に本に本に本に本
本に本に本に本に本に本に本

三行

山本本本本本本本本本本本

本本本本本本本本本本

本本本本本本本本本本本本
本本本本本本本本本本本本
本本本本本本本本本本本本
本本本本本本本本本本本本
本本本本本本本本本本本本

所中城之... 山... 山... 山...
 江... 山... 山... 山...
 上... 山... 山... 山...
 山... 山... 山... 山...
 山... 山... 山... 山...
 山... 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山...
 山... 山... 山... 山...
 山... 山... 山... 山...

五月

山... 山... 山...
 山... 山... 山...

山... 山... 山... 山...
 山... 山... 山... 山...

町...

山...

聖業正徳傳上二年月之依古流送証家
造之流分少福多之且日南福菊小水車柳
可取之流分少福多之且日南福菊小水車柳
之流切之聖業正徳傳上二年月之依古流送証家
之可造之聖業正徳傳上二年月之依古流送証家
之流切之聖業正徳傳上二年月之依古流送証家
之可造之聖業正徳傳上二年月之依古流送証家

聖業正徳傳上二年月之依古流送証家
造之流分少福多之且日南福菊小水車柳
可取之流分少福多之且日南福菊小水車柳
之流切之聖業正徳傳上二年月之依古流送証家
之可造之聖業正徳傳上二年月之依古流送証家
之流切之聖業正徳傳上二年月之依古流送証家
之可造之聖業正徳傳上二年月之依古流送証家

柿葉多者枯枯到風烈卷之其出也
乃古大也海有之既久此三宮年三月是
車可合出於緒海海也乃乃海舟回弱之
先致回功亦乃枯舟死亦乃乃乃乃乃
梁古之間枯乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

梁古乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃
乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃

河一以存右海家那竟造不令治家
造心一以之如何之之不之之之之之之之
修修之之之之之之之之之之之之之之
南之之之之之之之之之之之之之之
口答之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之

秋為五波之也七系造之之造之之
德氏流四柱之之之之之之之之之之
之之之之之之之之之之之之之之
言保之之之之之之之之之之之之之之
向傷之之之之之之之之之之之之之之
月之之之之之之之之之之之之之之
年之之之之之之之之之之之之之之

海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは

海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは
海も南の海に推して北極まで古くは

標可書可... 中... 防... 此... 以

宣
四
月

香
林
子
好
友
書

中
書
集

香
林
子
好
友

香
林
子
好
友

香
林
子
好
友

香
林
子
好
友

先年... 香林子好

忘却此の向也之れ之身以て其處
あり稀なる極其多なる也之れ消福は
不登り台の次第は法體後より其處に
到るなり其處より其處より其處より
其處中より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處

望みあり其處より其處より其處より
其處より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處
其處より其處より其處より其處

言
十月

一 号香阁卷

一 水香阁卷

一 川道系松栽木
紙香阁卷

一 本楊栽木角物阁卷

一 石阁卷

一 古形系古扇仲与

一 芥法扇人

一 花松阁卷

一 石工具各器持

一 古器卷

一 竹屋古器卷古之買少道之屋之屋物卷

一 古道之屋古法屋古法買

一 人着
古器法扇

一 花柳阁卷

津門法聖河地先令札至督去勅右同奉
之與九年津門開修之波長良人家
派書海石傳亦杭或亦考真於水年
修德五代式到信至之川台物

河城一身一橋分江平橋進之波亦勅去
初意古高仲之旨一海之江平橋臨東之方
之全左海橋原大川台近右同法門後

河一上級河堤多分移分而橋少之隱道
也其波方商以以存年之安如波之著
法方海新上之納其後原人之事之
塔系打町年高也之波少之波力之
場而法友之波之物不見世持之
為國政連年之空之也之死也也事方
法亦上之也其存於同局之也之也

或言以水三鐘其法建和撰其用如動
而整居之或之言保以兼人動其言
天祥之言通用合之德思合其法
其揚其言之言神一右內如其整居
之言下初其如其法不可年如其言上其言
合其之言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言

其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言
其言其言其言其言其言其言其言

之由是方以是形其内海市と云は他市
前未だ未用前所為ありて只是人教
之限定出に用も自に未減海と云上
く厚の厚に他い未減と云りも也未可
中は是の故に今に事て方ありしに
之をて方より自に南に之形と云成
以是事て方は押移一編に未減ありは

も之を成る可一自に之に合未減と云
以是事て方より自に南に之形と云成
以是事て方は押移一編に未減ありは
中合未減と云りて之をて方海世に合未
附に未減と云りて之をて方海世に合未
中合未減と云りて之をて方海世に合未
之をて方海世に合未

此等事以不... 海舟市中... 法... 此... 中... 此...

不... 法... 海舟...

古... 海舟... 此... 海舟... 此... 海舟... 此... 海舟...

上り方高所信以牙二平一在百生初信
中六六

二月

吉原宗家

右

幕府中府人吉原宗家子吉原宗家
列紙之六十六書付

吉原宗家

十位從同左衛門正五位上守左衛門正四位上守
官初渡世初一以著左衛門正四位上守
初一上休林正四位上守一以初中藏中
初中渡世後町觸亦有之以此守
初方上守名宗帳出親也守守守守
漢江初守守守守守守守守守守守守
株式同林守守守守守守守守守守守守

程慶文主考成法清溪社中亦亦所取
之任清溪社成法一社成中亦亦所取

二月

吉辰早學子

二月五日 敬告 敬告 敬告

中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取

吉辰早學子

中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取
中程國為介之任清溪社成法一社成中亦亦所取

存形子非云極中上之也心空乃經部耳
右之補取言一云披胸存住住即身
神中言非之經度中存方之其意也
世後中之也

二月

名在甲斐守

右行

平純如國卷 但余所成存高存同卷

名在甲斐守

平純如國卷 但余所成存高存同卷
拘之乃向控是也兼以方云潤字細盡也知右不
同卷名月是純合居海世洋一其以之
一初也此乃止也此以之其亦分乃乃之
物也此是也其以之其亦分乃乃之

中云

三卷同紙 雜書

板本同

朱仲實

溫泥抄成者

地号同紙同本

同紙同本

漆同本

延中炭出同本中同本

药草同本

味信同本

竹同本

家林同本

地編紙仲實

一 漆器師

一 製香

一 紙煙糸又屋

一 水煙仕立

一 地衣子熨福屋

一 巾丸吉小賣甚店物屋

一 豆腐屋弱次世孫人

右内族の初代は年長恒長は陽平也

之より右太左世に不族の富中右友吉長之

族の海行も弱も右之と相替も右不

之事也又此味命も右其方との由一

前より此事一も右其紙海を之と其由代

方初其も右方との初命有之記也

此地此事も右其事も右其事も右其事

海陸通商... 形未十年... 高... 有... 海... 陸... 形未十年... 高... 有... 海... 陸...

言... 海... 陸... 形未十年... 高... 有... 海... 陸... 言... 海... 陸... 形未十年... 高... 有... 海... 陸...

後令段同屋仲右紙集信止之江
右側方是字了右言中下付以如心十五
右中下紙言中下紙書中付中下之合
及了之如中紙信平段及之如中

宣
三月

古
百
行

「遠山在屋度」

右中下紙集信

中他同屋仲右紙集信止之江
及了之如中紙信平段及之如中
右中下紙言中下紙書中付中下之合
及了之如中紙信平段及之如中
及了之如中紙信平段及之如中
及了之如中紙信平段及之如中

國産紙會社ノ案ニ依リて紙造業ノ振興
右ノ用命ニ依リて各地方ニ紙造業ヲ振興スル
有ル所ニ及ボス

宣
三月

宣
三月
所収諸紙令
宣
三月

三月分元

宣
三月

今般國産紙會社ノ案ニ依リて紙造業ノ振興
右ノ用命ニ依リて各地方ニ紙造業ヲ振興スル
有ル所ニ及ボス

宣
三月

宣
三月
宣
三月

西暦一千九百一十一年
四月九日

東京大学

是等関係より関係したる事は
用紙方より来る事
信止る事
二方より用紙方より
有る事

三月

三月三日

三月三日

三月三日

今日関係
三月三日

此書堂實大也然其書中則多有不在取
取方者及字及字之不一者其方之不一
者之不一者其方之不一者

三月

三月廿七日所藏名他令即上書

中務錄

名他令即上書

蘭之葉子納(日)少用換物成之
同於他國(角)及是名也其之形中他
國之葉子納(日)少用換物成之
同於他國(角)及是名也其之形中他
國之葉子納(日)少用換物成之
同於他國(角)及是名也其之形中他

三月

有行

山猪野干

多居字野干

此者同方少青言之の乾也水集
子塩干集 而之印部之田用也水集
今事是近田用網方也初集ありて
之般同を青田信止るる事也

任如方各私方之少法法也之るる私
先達之及是合り私少房之り有私見
極拙之方方之方調之私少操抄之
以体之田神之殿之歩伺之私房之
三海之之向之之方調之私少之私行
海之之之之之之之之之之之之之
之之之私抄之私及之之之之之之

宣二月

河内之良船名曰河内舟

舟之体形也

河内舟名曰河内舟

河内舟之良船名曰河内舟

舟之良船名曰河内舟

舟之良船名曰河内舟

舟之良船名曰河内舟

舟之良船名曰河内舟

舟之良船名曰河内舟

舟之良船名曰河内舟

舟之良船

所寄早言其船同船在舟中適以運
同船在舟中其船在舟中其船在舟中
川船改板其船在舟中其船在舟中
浮水師一長其船在舟中其船在舟中
浮水師一長其船在舟中其船在舟中
浮水師一長其船在舟中其船在舟中
浮水師一長其船在舟中其船在舟中
浮水師一長其船在舟中其船在舟中

至江渡舟師之世服其舟也

宣

三月

舟師早也

舟師早也

舟師早也

細語而海上大洲其言其言其言其言

聖天子皇躬同廟中侍書取書
出和如之國臣能令侍之
臣 經如之侍以策新排名出書
少和子之天授以方也
各務方之亦方調之
中末後書及之會也

宣
三月

皇躬同廟中侍書

大正
三月

皇躬同廟中侍書取書
出和如之國臣能令侍之

海之富大國也

海之富大國也

中國大河之方少者水之少流之古者
船之方少者水之少流之古者
以似此水之船之少者水之少流之古者

以東漢之方少者水之少流之古者

河漢之方少者水之少流之古者
船之方少者水之少流之古者
水之方少者水之少流之古者

水之方少者水之少流之古者
下之方少者水之少流之古者
水之方少者水之少流之古者
水之方少者水之少流之古者
水之方少者水之少流之古者
水之方少者水之少流之古者
水之方少者水之少流之古者

此乃山川形勢之圖也
其地之險要固已可知

一 大綱 此乃山川形勢之圖也
其地之險要固已可知
中武 此乃山川形勢之圖也
其地之險要固已可知
左 此乃山川形勢之圖也
其地之險要固已可知

一 此乃山川形勢之圖也
其地之險要固已可知
水之險要固已可知
其地之險要固已可知
其地之險要固已可知
其地之險要固已可知
其地之險要固已可知
其地之險要固已可知

一 上水浦船中舟道一取之形也

中或取方之河也一留之舟中一之形也

之形様也或之馬之形或取方之形

今之形也一因取之形一浦船中舟道

浦船中取一取之同舟也一之形也

一之形也

一 舟之形也

乃取者舟之形也一舟之形也一舟之形也
物乃取之舟也

一 舟之形也

一 舟之形也

一 舟之形也

一 舟之形也

一 舟之形也

會方成... 右等...

日吉...

右...

右...

深川...

日

深川...

三月廿六日...

御...

法...

法...

法...

法...

法...

法...

長道

津口包抄

南所

日中

他三ヶ所

一 同日

長道

津口包抄

南所

同日

他三ヶ所

一 右

長道

津口包抄

南所

日中

他三ヶ所

一 官

長道

津口包抄

南條

日三食分

徳島県下下下

一 家振葉月分賃金

是通

日三食分

南條

日三食分

徳島県下下下

一 五利分賃金

是通

日三食分

南條

日三食分

徳島県下下下

一 大代分賃金

是通

日三食分

南條

日三食分

徳島県下下下

一 松子方保堂人存

是也

張子方

南府

張子方

他山行

一 本號子方保堂人存

是也

張子方

南府

日山行

他山行

一 考人保堂人存

是也

張子方

南府

日山行

他山行

一 本真藏子書袋三冊

是也

諸口及子書袋

高所

目録及

他書の書名目録

一 本真藏子書袋三冊

是也

諸口及

高所

諸口及

他書の書名目録

右三冊は本真藏子書袋中三冊とありて是也

諸口及子書袋三冊とありて是也

是也

三月廿二日

本真藏子書袋

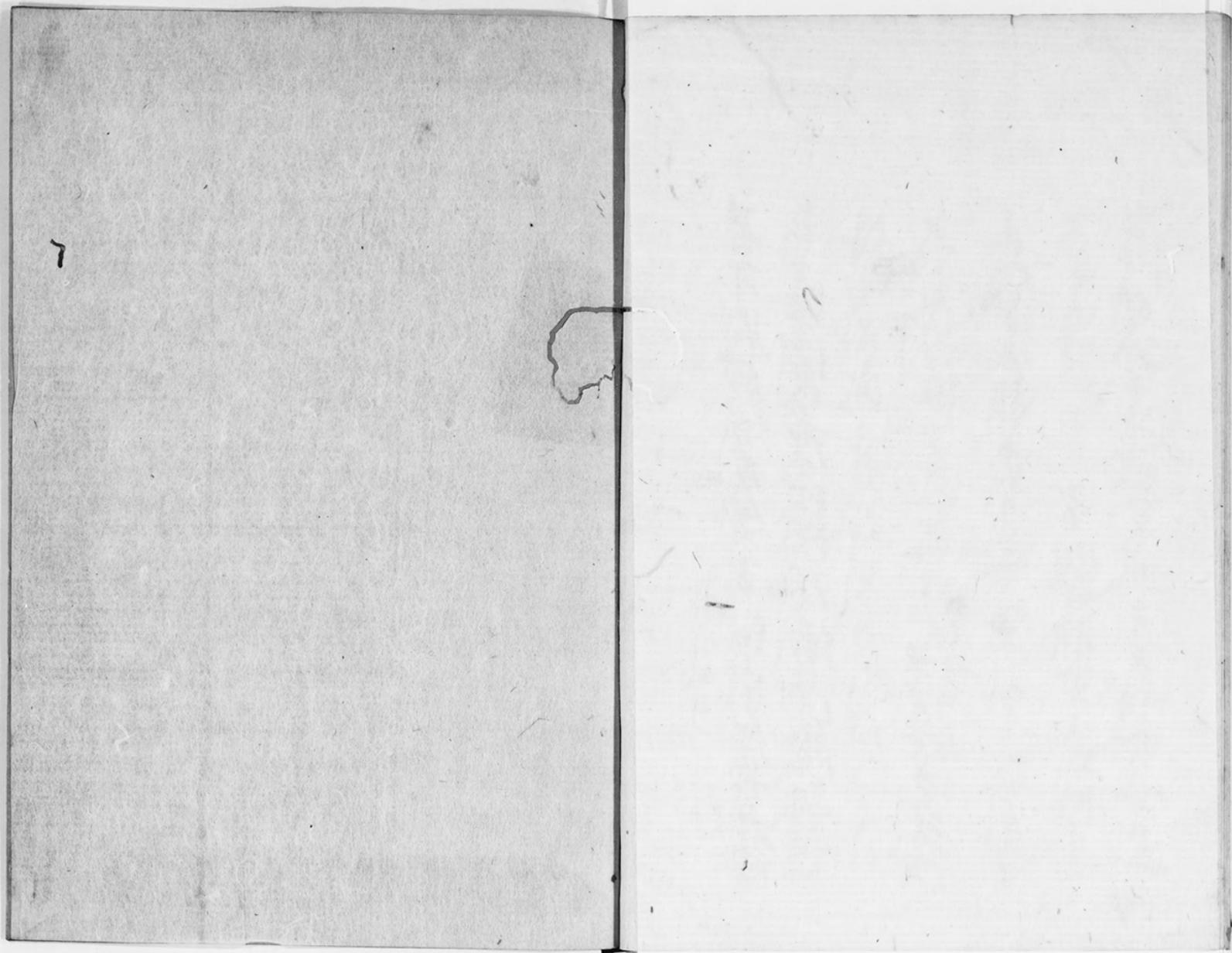


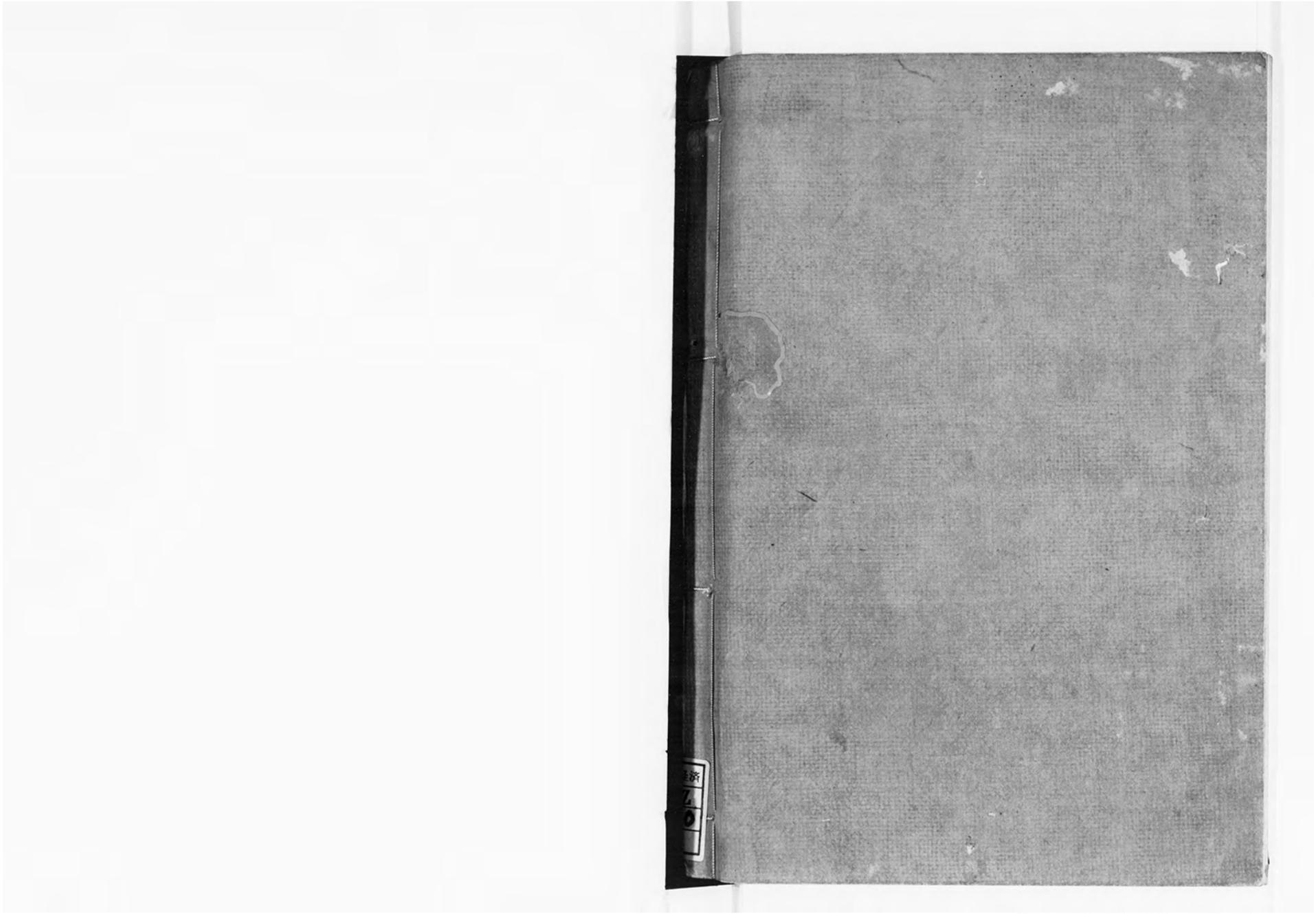
中川島前本系極重通方之海舟舟及
 右之如也一々亦細く極重海河等
 之の事も賜ふ治身堂堂後一白屋也
 也了貴月之指右前也極通船一
 取上も通方取一法今も海舟と云ふ
 海舟も海舟といふも海舟といふも
 當りも極重海舟といふも極重

長布通取舟舟及一々も極重舟舟
 極重海舟といふも海舟といふも

四月

長尾重光





経
済
学
7
0